

第 706 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2025 年 6 月 14 日(土) 午後 2 時 00 分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位 (iii 貼付用) 学術集会参加単位 (iv -B 貼付用)	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要 (60 分)



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※ 日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※ 建物の外観：ガラスカーテンウォール

※ 看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和医科大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和医科大学医学部小児科 担当：阿部 祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※ 講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP： <https://jpeds-tokyo.com/>



第 706 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)
《プログラム係 都立小児総合医療センター 幡谷 浩史》

一般演題 (1) 14:00 – 14:30 座長 池側 研人 (都立小児総合医療センター内分泌・代謝科)

1) FreeStyle リブレ 2[®] を使用して血糖コントロールを行った 2 型糖尿病の 1 例

○数間 貴紀、松岡 尚史、衛藤 薫、鈴木 悠、東 範彦、老谷 嘉樹、池野 かおる、長谷川 茉莉、小谷 碧、三田 さくらこ、長田 知房、岡崎 菜摘、小菅 健司

(東京女子医科大学附属足立医療センター 小児科)

12 歳男児。近医で 2 型糖尿病および肥満で加療中であったが、血糖コントロール不良となったため紹介された。食事療法およびメトホルミン内服のみでは血糖コントロール不良であり、FreeStyle リブレ 2[®] を装着し、持効型インスリンの皮下注射を開始した。その後血糖コントロール良好であった。

今回の症例を踏まえて持続血糖モニタリングを実施することによる血糖コントロールの有益性について文献を含めて考察する。

2) 低リン血症性くる病における早期診断の重要性

○諸橋 萌¹⁾、鈴木 友梨²⁾、折本 竜太²⁾、高澤 啓²⁾、高木 正稔²⁾

(¹⁾ 東京科学大学病院 総合教育研修センター、²⁾ 同 小児科)

症例 1: 5 歳女児。易転倒性を主訴に骨系統疾患が疑われ紹介された。1-2 歳から O 脚を認めており、今回 FGF23 関連低リン血症性くる病の診断に至った。ブロスマブを導入後、歩行様式は著明に改善した。症例 2: 37 歳男性。脱落歯を契機に当院歯科から紹介された。諸検査にて X 染色体連鎖性低リン血症性骨軟化症と診断した。低リン血症性くる病の治療選択は拡大しており、早期診断と適切なフォロー体制の構築が肝要である。

3) 良悪性の鑑別に Bosniak 分類が有用であった小児腎嚢胞性疾患の 2 例

○岡田 展幸¹⁾、柿原 知²⁾、森田 香織²⁾、高澤 慎也²⁾、吉田 真理子²⁾、藤代 準²⁾

(¹⁾ 東京大学医学部附属病院 総合研修センター、²⁾ 同 小児外科)

症例 1 は 2 歳女児。画像検索で隔壁や結節のない Bosniak 分類 I の長径約 9 cm の右腎嚢胞を認めた。単純性腎嚢胞と診断し、腹腔鏡下腎嚢胞開窓術を施行した。症例 2 は 12 歳女児。画像検索で造影効果のある結節・隔壁を伴う Bosniak 分類 IV の長径約 8 cm の左腎嚢胞を認めた。左腎悪性腫瘍と診断し、開腹左腎臓摘出術を施行した。病理診断は腎細胞癌であった。小児腎嚢胞性疾患の良悪性の鑑別に本分類が有用であった。

一般演題 (2) 14:30 – 15:00 座長 守山 汐理 (都立小児総合医療センター 神経内科)

4) 乳児期に発症した反復性嘔吐症でガバペンチンが有効であった 1 例

○三原 あゆみ^{1) 2)}、柘植 朋子²⁾、伊東 藍²⁾、中尾 寛^{1) 2)}、窪田 満²⁾、庄司 健介¹⁾

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 教育研修センター、²⁾ 同 総合診療部)

1 歳 5 か月女児。生後 7 か月から約 1 週間ごとに高血圧と流涎を伴う嘔吐発作を反復したが、前医の各種検査で頭部と腹部に器質的異常を認めず、周期性嘔吐症としての治療は無効であった。精査加療目的に当院に入院し、自律神経症状から発作性交感神経過活動を疑いガバペンチンを導入したところ、30 mg/kg/日に増量後に嘔吐発作が消失した。自律神経症状を伴う難治性嘔吐ではガバペンチンが治療選択肢となりうると考えられた。

5) 腰椎穿刺の適応に苦慮した特発性頭蓋内圧亢進症の1例

○河内 優美、石田 悠、税所 純也、中野 英太郎、田仲 樹、藤井 卓也、鈴木 崇、大岩 純平、
千田 理絵、山中 岳

(東京医科大学病院 小児科・思春期科)

9歳女児。数日前からの頭痛と複視を主訴に受診。右外転神経麻痺、両側視神経乳頭の腫脹を認めた。頭部MRIの特異的所見と髄液圧上昇から特発性頭蓋内圧亢進症(IIH)と診断した。頭蓋内占拠性病変を除外した上でアセタゾラミド内服、脳脊髄液ドレナージを行い症状と所見は改善した。腰椎穿刺はIIHの診断・治療に有用であるが、脳ヘルニアの惹起に留意が必要であり、危険性を十分に説明し慎重に行う必要がある。

6) 進行する体重減少を契機に診断された間脳腫瘍の1例

○林 茉利奈、草野 晋平、山田 啓迪、谷口 明德、石橋 武士、富田 理、藤村 純也、
東海林 宏道

(順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

1歳女児。周産期異常なく成長発達は良好であった。感染症罹患を契機に生後11か月ころから体重が減少していた。栄養指導により経口摂取は良好であったが体重減少が遷延した。1歳4か月時の頭部MRI検査で間脳に腫瘍を認めた。脳腫瘍による間脳症候群は、カロリー摂取が十分であっても高度のるいそうをきたすが、発症頻度が低く診断が遅れることが多い。乳幼児の体重減少の原因として間脳症候群を想起することが重要である。

一般演題 (3) 15:00 - 15:30 座長 松島 崇浩 (都立小児総合医療センター 総合診療科)

7) 喫煙具の部品を誤飲した乳児の1例

○鈴木 美穂¹⁾、唐渡 諒²⁾、矢下 博輝³⁾、本多 昌平³⁾、三好 布季子⁴⁾、長谷川 真⁴⁾、
阿部 祥英³⁾、吉澤 穰治³⁾

(¹⁾ 昭和医科大学 医師臨床研修センター、²⁾ 昭和医科大学医学部小児科学講座、

³⁾ 昭和医科大学江東豊洲病院こどもセンター、⁴⁾ 昭和医科大学江東豊洲病院 放射線診断科)

8か月乳児。口周囲に煙草の灰が付着し、吐物に灰が混入していたため、父親とともに来院した。身体所見や胸腹部単純X線検査で異常なく、翌日の再診を指示された。翌日、不機嫌で流涎を認めた。正面像では判明しなかったが、頸部・胸部単純X線検査の側面像とCT検査で喫煙具の部品と思われる陰影を認めた。内視鏡的摘出術により、円形網状の異物が除去された。異物誤飲を疑う際は頸部を含めた2方向の撮影が必要である。

8) 臨床画報の作成を契機にしたアクティブ・ラーニング推進の試み

○阿部 祥英、浅山 真史、金澤 建、村川 哲郎、城所 励太

(昭和医科大学江東豊洲病院 こどもセンター)

臨床実習に参加した医学生のうち、希望者に臨床画報の作成を依頼した。その題材には診断に特徴的・特異的な所見を呈した症例を選んだ。また、臨床実習の評価対象にはせず、医学生の内発的動機づけを尊重した。3名の医学生は、学会発表を経て、症例報告論文の作成、医学系雑誌への投稿、掲載受理を成就した。今回の試みは医学生にとって、将来の医師像のビジョン形成や一つのテーマから学びを深化できる可能性があり、供覧する。

9) 近視は6歳をすぎた年長児で急増している

○野末 富男¹⁾、阿部 祥英²⁾

(¹⁾ のずえ小児科、(²⁾ 昭和医科大学江東豊洲病院 こどもセンター)

近視は低年齢化、重症化が加速し、6歳をこえると増加する。しかし、6歳前後の縦断的な研究が少なく、幼児から学童への移行期にどの程度近視が増加するかを調査した。8カ所の保育園の同じ年長児253例を対象に2024年と2025年の春にスポットビジョンスクリーナー[®]で屈折検査を施行した。近視は6例2.4%から27例10.7%へと4.5倍に増加した。よって、就学前の年長児から近視の予防に取り組む必要性がある。

* * 休 憩 15:30 – 15:40 * *

感染症だより 15:40 – 15:55 (講演: 15分)

講師 森野 紗衣子 (国立感染症研究所 感染症疫学センター)

共催セミナー 15:55 – 16:35 (講演: 40分)

「小児における血清亜鉛濃度測定と補充療法の意義を考える」

座長 相澤 まどか (コトコトクリニック)

講師 新井 勝大 (国立成育医療研究センター消化器科)

子ども達の適正な成長と発達には、適正な栄養が重要である。特に亜鉛は、成長や味覚、創傷治癒にも関わる微量元素として注目され、食事やサプリによる補充療法がおこなわれていた。2017年には、低亜鉛血症・亜鉛欠乏症の治療薬として酢酸亜鉛錠が開発され、2023年には顆粒剤の使用も可能になった。本講演では、亜鉛欠乏症のリスク患者の血清亜鉛濃度を評価し、低亜鉛血症を補正していくことの意義と、その実際について共有する。

共催：株式会社シノテスト

* * 休 憩 16:35 – 16:45 * *

「当科における DOHaD と母乳栄養研究」

座長 中野 有也（昭和医科大学江東豊洲病院 こどもセンター）

講師 東海林 宏道（順天堂大学医学部小児科学講座）

胎児発育不全（fetal growth restriction：FGR）など、児が出生前後に曝される環境が将来の生活習慣病発症リスクと関連することは DOHaD（Developmental Origins of Health and Disease）として知られている。一方、母乳は乳児にとって最適な栄養源であり、DOHaD の観点からも推奨される。当科で実施したこれまでの研究結果を踏まえて DOHaD の視点からみた FGR の現状と母乳栄養に関する新たな視点について概説する。

◆ 2025 年度講話会及び年間行事予定 ◆

■ 講話会予定

講話会	日 程	会 場	備 考
第 707 回	2025 年 7 月 12 日（土）	アットビジネスセンター八重洲通 （会場開催のみ）	※演題締切
第 708 回	2025 年 9 月 13 日（土）		※演題締切 2025 年 6 月 20 日
第 709 回	2025 年 10 月 11 日（土）		※演題締切 2025 年 8 月 20 日
第 710 回	2025 年 12 月 13 日（土）		※演題締切 2025 年 9 月 20 日
第 711 回	2026 年 1 月 10 日（土）		※演題締切 2025 年 11 月 20 日
第 712 回	2026 年 2 月 14 日（土）		※演題締切 2025 年 12 月 20 日
第 713 回	2026 年 3 月 14 日（土）		※演題締切 2026 年 1 月 20 日

* 4, 5, 8, 11 月は休会

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpeds-tokyo.com/>



■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を年間3回開催されることが予定されています。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii小児科領域講習3単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2025 年 12 月 7 日（日）	日本大学	※参加申込は各コース 4 か月前より
2026 年 2 月 7 日（土）	国立成育医療研究センター	
2026 年 2 月 8 日（日）	国立成育医療研究センター	

申し込み先：日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

■ 第 50 回東日本小児科学会のご案内

会 長：昭和医科大学医学部小児科学講座小児内科学部門 教授 水野 克己

大会テーマ：こどもたちの笑顔あふれる社会を目指して

日 程：令和7年11月23日（日・祝）

会 場：一般財団法人全電通労働会館（ハイブリッド開催）

U R L：<https://www.k-gakkai.jp/eastjp50/>



◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2025 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

年会費納入のお知らせを 2025 年 4 月 1 日以降、メールおよびホームページにてご案内しております。

2025 年度会費及び 2024 年度・2023 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

*会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認ください。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】昭和医科大学医学部小児科

【運営事務局】日本大学医学部小児科

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

